

生活価値を向上させる 住宅産業

旭化成ホームズの戸建て住宅「ヘーベルハウス」に取り入れた夫婦共働き世帯向けのキッチン



積水ハウスは主力商品の鉄骨一戸建て2階建て高価格帯住宅「イズ・シリーズ」を全面改良した。断熱仕様では基準が最も厳しい北海道に対応した高性能の樹脂サッシと3枚ガラスを開口部に採用するなど、高断熱化を推進し、ZEH化を推進している。

さらに光触媒を標準装備し防汚性能を高め、補修サイクルも30年と高い耐久性を持たせた。酸化チタンに銀や銅を加えた光触媒技術で有機物や油、窒素酸化物(NOX)、藻・カビも分解する技術を初めて導入。年月が経過しても外壁の見栄えが長期間劣化せず、資産価値を高める。

屋根の勾配が6寸と大きい「イズ・ステージ」と、同5寸と平ら屋根の「イズ・ロイエ」の2タイプを用意。同社の商品モデルとして最多の月間販売500棟を目指す。積水化学工業は2014年度から3年間の新たな中期経営計画をスタートし、「スマートハウスナンバワン戦略」を掲げた。13年に投入したZ

受注回復の切り札に

スマートハウスに期待

大手住宅メーカーの春の新商品は家庭内の正味エネルギー使用量をゼロにできるネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)などスマートハウス(次世代環境住宅)が中心となった。省エネルギーの市場ニーズは高く、消費税8%による影響で受注の反動減が続いている中、スマートハウスは成長が期待できる分野。各社が受注回復へ大きな期待をかけている。

省エネルギー以外にも住宅生活のニーズを取り入れて新築市場を開拓する動きが出ている。旭化成ホームズは夫婦共働き世帯を意識した住空間を主力の戸建て住宅「ヘーベルハウス(HH)」に導入した。夫婦共働き世帯が一般化する中で、夫も調理や洗濯など家事に取り組む例が増えていることに着目。特に30代を中心に、意欲がありながらなかなか家事に踏み出せない夫の家事参加を促す住空間を開発した。その代表的な例が永大

生活ニーズを重視 共働き世帯向けに工夫

産業と共同開発したキッチン。シンク部とコンロ部を独立させた2列型で、回遊性を高めた。特にコンロとシンクの位置をすらしたり、調理スペースを四つ設けたりすることで、夫婦の共同作業もスムーズにできるという。このほか、洗濯機スペースや物干しなどなどを集約したランドリールーム、家族全員の衣類を1カ所に集中させたクロゼットを提案する。夫婦共働き世帯向けの新しいプランとしてHの提案力を高める。



住友林業のスマートハウス「グリーンスマートソーラーZ」

スマートハウスを累計4000棟以上発売した実績のある大和ハウス工業も、今後供給する全ての戸建て住宅に、家庭用エネルギー管理システム(HEMS)とPVシステムを標準搭載し、「スマ・エコ」のブランドで投入する。高断熱・省エネ機器採用の「ゼロエネルギー」とリチウムイオン蓄電池装備の「チャージ」の2モデルから選べる。HEMSはパナソニックと共同開発し、標準規格「エコーネットライ」に対応。パナソニックのテレビを通じて、テレビ番組の視聴・録画ができるほか、宅外からスマートフォンでエアコンの制御や玄関鍵の施錠ができる。同社は20年までに二酸化炭素の排出量で、初年度は200棟の販売を目指している。

家電や施錠を制御 太陽光の活用拡大

その過程の一環となる。住友林業は屋根と太陽光パネルを一体型にしたZEH-グリーンスマートソーラーZを投入した。緩い勾配の片流れの屋根形状とすることで、発電容量10キロワットと大規模な発電システムとデザイン面を両立、限られた屋根面積を最大限に活用し、効率的にエネルギーを創出する。電力の全量買い取り制度に対応可能で、設置屋根面積が約46平方メートルの住宅から搭載できる。初年度は200棟の販売を目指している。

EH「スマートハウス」を搭載し、スマート「デーション」に続き、電気自動車(EV)の蓄電池から住宅へ送る電力を接続したスマートハウスを5月に発売した。従来、EVから給電する場合は系統電力を一時遮断する課題があったが、EV用パワーコンディショナー(電力調整装置)を活用して系統電力を遮断せずに給電できる。EV用とPV用のパワーコンディショナーを連結させたことで、停電時もPVでEVを充電できるようになった。こうした省エネルギー型住宅の商品を投入している。



積水化学工業のEVと住宅を結びつけたスマートハウス「グランドビューto Heim」

特に戸建て住宅の受注は13年が駆け込み需要で好調だっただけに、回復の兆しが見えられない。戸建て住宅の落ち込みを相続税の節税対策として好調な賃貸住宅でカバーする状況が続く。また、新築住宅でもスマートハウス市場は成長が期待できる分野の一つと言われている。富士経済(東京都中央区)の調査によると、スマートハ

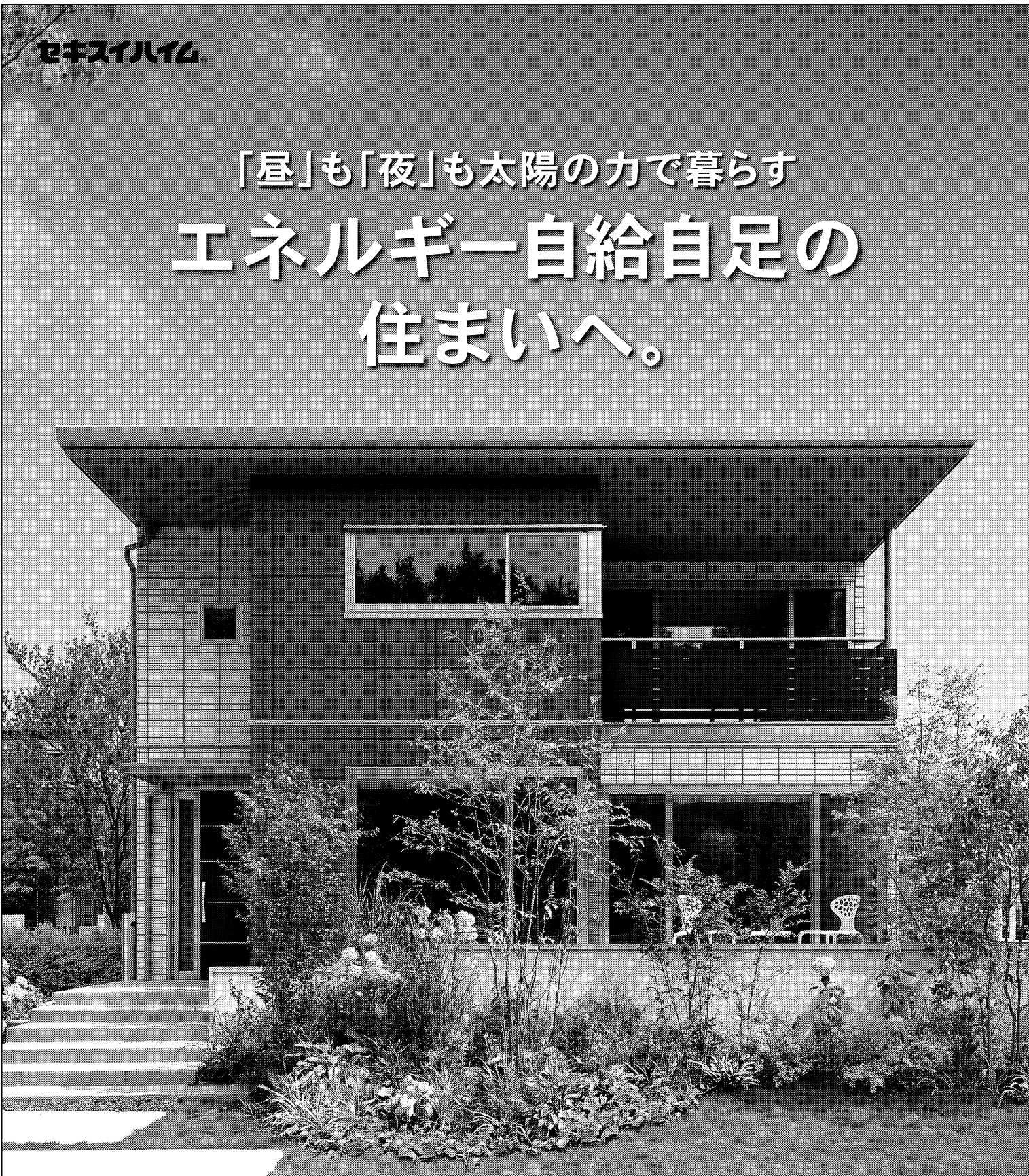
背景には、増税による受注減を回復させたい住宅メーカー側の思惑がある。足元では消費増税後の対前年同月比の反動減が13年10月から直近の14年6月まで半年以上も続いている。こうした省エネルギー型住宅の商品を投入している。



ボラスグループが考案した子育てに適した住宅のリビング

第一弾の適用物件として全13棟の分譲住宅「ママトコ南浦和」(埼玉県川口市)を発売した。今後は9月上旬に販売予定

の全53棟の分譲住宅「パレットコート柏たなか未来区」(千葉県柏市)にも一部反映させる。



「昼」も「夜」も太陽の力で暮らす
エネルギー自給自足の
住まいへ。



昼 10kW大容量ソーラーで、たっぷり電気を創る!

大容量ソーラー
太陽の力で発電
太陽の力で暮らす
太陽の力で充電



夜 蓄電池に貯めた電気で暮らす!

太陽の力で暮らす
太陽の力で放電
蓄電池
「e-Pocket(イーポケット)」
NEW コンパクト&大容量
屋内設置型

※上記の生活イメージは蓄電池を「クリーンモード」で使用する前提です。割安な深夜電力を活用する「経済モード」も使用可能です。
※夜の電力使用可能量は諸条件により異なります。

暮らしとエネルギーの関係を一歩進める、「3つのゼロ」を目指す住まい!

セキスイハイム

SmartPowerStation

スマートパワーステーション

光熱費ゼロ

20年間固定買取対応※1で、
約1,000万円の
経済メリット※2に。

エネルギー収支ゼロ

使った分は自分で創る。
消費量<発電量で
環境にやさしい暮らし。

電力不安ゼロ

電力の自給自足で、
災害停電やエネルギー価格の
上昇に備える。

※1 自家発電した電力を決まった単価で買い取ってもらえる制度。20年買取は10kW以上のソーラーで対応可能。
※2 一般住宅とスマートパワーステーションのモデルプランにおける光熱費収支の当社試算(累積)。1000万円を得られるわけではありません。